

情報通信審議会 情報通信技術分科会 陸上無線通信委員会
5.2GHz帯及び6GHz帯無線LAN作業班
AFCシステム運用検討アドホックグループ（第1回）
議事概要(案)

日時: 令和6年10月11日(金) 16:00～16:50

場所: Webによる開催

主 任 : 高田 潤一
構 成 員 : 安藤 憲治、井原 伸之、木村 亮太、小林 佳和、成清 善一、
平松 正顕、森 祐治、吉田 英邦
事務局(総務省): 小倉室長、皆川課長補佐、岩佐主査、出口官

1 配布資料

議事次第

Ad-hoc1-1 6GHz帯無線LANにおけるAFCシステムの運用体制等の検討開始
Ad-hoc1-2 諸外国における6GHz帯周波数共用システム運用等に関する調査実施の方針

2 議事概要

(1) 開会

(2) 議事

① 6GHz帯無線LANにおけるAFCシステムの運用体制等の検討開始
事務局から、資料「Ad-hoc1-1」に基づき説明が行われ、特段質疑はなかった。

② 諸外国における6GHz帯周波数共用システム運用等に関する調査実施の方針

PwCコンサルティング合同会社の平様から、資料「Ad-hoc1-2」に基づき説明が行われた。成清構成員から、米国、カナダの調査において、干渉発生等有事の際の対応についても調査していただきたいと要望があり、平様からヒアリング調査が中心となるが、公開情報含め調査するとの回答があった。成清構成員から、アウトプットであるAFC運用指針はどういった位置づけのものを想定しているのか質問があり、事務局から、規定というよりはガイドラインのようなものを想定しており、今後検討する運用主体のあり方にも鑑みながら作成したいと回答があった。安藤構成員から、干渉発生時、復旧までの対応について、調査をしっかりと掘り下げてほしいとの要望があり、平様から調査していきたい旨の回答があった。ARIBではAFCがない中で周波数調整を行っているが、既存の仕組みを具体化し、システムにどう落とし込めるかが重要であると意見があり、平様から、事務局と調整の上調査したいと回答があった。また、事務局から、既存の仕組みとの比較も意識して検討を進めていきたいと回答があった。事務局から、既にAFCを運用している米国、カナダにおける有事の実例や件数についても調査していただきたいと意見があり、平様から調査していきたい旨の回答があった。高田主任からITU等のデジュール側でAFCに係る議論はされていないのかという質問があり、平様から、電波伝搬モデル等の議論はあるが、現在

調査している範囲ではAFCの議論はされていない認識であると回答があった。

③ その他

事務局から、今後の進め方及びスケジュールについて説明が行われた。

3 閉会

以上